

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990500290		
法人名	株式会社 ケアメディカル		
事業所名	グループホームほほえみ鹿沼		
所在地	鹿沼市上南摩町195-9		
自己評価作成日	令和元 年 6 月 10 日	評価結果市町村受理日	令和元 年 9 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の目標は、一日無事にご利用者様に楽しく笑って過ごしていただける事です。毎月大なり小なりのイベントを実施しています。いつでもご家族様に施設に立ち寄っていただけるような施設作りを目指していますので、ご利用者様はもちろんご家族様、職員も楽しめる企画を実施しています。毎日の機能訓練も楽しみながら取り組んでいただけるよう工夫しています。自然や季節の変化を感じられる企画の一つに毎月ご利用者様手作りのカレンダー制作があります。楽しく、その人らしく、もう一つの家として過ごしていただけるよう、家族に代わってお手伝いいたします。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、今年2月に新設され、市街地から少し離れた自然豊かな農村地域の一角、閑静な住宅街に立地している。職員は、利用者一人ひとりの暮らしの希望や思いに寄り添い、その人らしい暮らしが継続できるよう日々考えながら支援している。利用者について、一つの見解だけでなく、広い視野でみた多くの気付きや意見から判断ができるよう、日頃から管理者と職員とが互いに意見を出し合い、より良い支援に努めている。職員同士はコミュニケーションを大切に、互いに相談や意見を述べやすい関係作りを努めており、職員の間には連帯感があり、職員が一体となって、利用者のケアにあたっている。また、運動機能の維持が生活の質の維持向上にも繋がるとの思いから、日常の中に運動や体操を取り入れ、体力が衰えないように支援している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和 元年7 月24 日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(理念)①入居者様の生活向上。②個人の役割。③地域の人と交流を深める。①掃除をしたり、体操、散歩等を行っている。②朝、9時30分、入居者様と職員で掃除を行う。その人に出来る事を行う。③散歩の時、地域の方にお会いしたときは挨拶を心掛けている。	会議で話し合い、職員皆で意見を出し合って考えた理念は、生活に即した内容となっている。掃除や食事の準備等、利用者一人ひとりが持てる機能を活かし、役割を持って暮らしており、理念が実践に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	見学などの依頼があった時は施設内の説明等をさせて頂いています。③散歩の際、地域の方と会った時は挨拶をするようにしている。	毎日の散歩では、犬の散歩などを行っている近隣住民と挨拶を交わし、顔見知りになっている。広報紙を地区の回覧板で回してもらい、事業所について知ってもらえるよう努めている。地区長が、地域行事の情報提供や、畑の野菜等のお裾分けを届けてくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設での暮らし生活などをして頂く為、地域の回覧板を利用し毎月1回(ほほえみ鹿沼だより)を発行しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第一回目の運営推進会議は、介護福祉課、民生委員、包括支援センターの方に来て頂きました。そこで、話合えたのは、水害、土砂崩れが合った時の避難場所の確認をしました。	家族、地域包括支援センター、市職員、民生委員等が参加し、2ヶ月に1回開催している。日々の暮らしぶりの報告とともに、地域生活に必要な情報を得る場として活用している。	開所後間もないこともあり、まだ諸々の議題について話し合う機会が少ないが、会議の内容を全職員で共有し運営に反映させたり、地域と事業所の繋がりの場として会議を活かした取り組みを検討したりと、今後の運営推進会議活用を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地元の方から畑を借りて皆で季節の野菜等を植えて園芸療法をしております。地元のイベントにも積極的に参加していきます。	運営推進会議に出席してもらい、事業所の運営状況を報告している。日頃から利用者の現状をこまめに伝えている。事務手続き等わからないことがあれば、市担当者に確認し、助言をもらいながら協力関係を築くよう心がけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員のカンファレンスにて身体拘束の資料を用いて勉強会を行う。年4回の予定をしています。一回目は5月に行っている。	毎月のカンファレンスにて勉強会を行い、拘束にあたる行為について学んでいる。日頃から職員間のコミュニケーションを取り、互いにサポートしながら、安全に配慮しつつ拘束のない支援に取り組んでいる。今後は月毎に身体拘束や食中毒など各種テーマを挙げ研修会を行っていく予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員カンファレンスで虐待防止について資料を用いて勉強会を行う。10月の予定		

グループホームほほえみ鹿沼

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員カンファレンスで資料を用いて、これから実施していく。何月、担当を決める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談、苦情の時は速やかに対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加をして頂き問題等をあげて頂いています。	家族への利用料請求書送付の際に広報紙を同封し、毎月の活動の様子を報告している。また来所時には利用者の近況を伝えながら、話しやすい雰囲気作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員カンファレンスで行っています。	管理者は、より良い支援を皆で作ってあげようとの考えから、日頃から職員の意見に耳を傾けており、職員が意見や提案を話しやすい環境ができています。会議での話し合いや申し送りノート等への記入の他、気付いたことは口頭で伝え、良いアイデアが挙げれば、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を完備しております。各自の能力が個々で違う為、定期的に共通の全体研修と個々での実務の研修と取り入れていきます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で全体研修を取り入れています。又、介護未経験の方も入職するケースがありますのでリーダーが個別に業務につき教えていきます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ボランティアさん(フラダンス等)を積極的に受け入れ地域の方とご入居者様と職員と相互の連携を取りご入居者様へのサービスの質を向上致します。		

グループホームほほえみ鹿沼

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前にアセスメントを取らせて頂いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごとには速やかに対応している。その事をカンファを用いて職員一同で話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様と良く話し合いサービスを考えております。現在は他のサービスはまだ、利用していません。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人に合わせた対応をしてしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にはご本人様の為にもご協力をお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の友人、知人が面会に来たりしている。	友人の訪問は少ないが、家族や親戚、家族に用事を依頼された知人等が面会に訪れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リクリエーション際に声の掛けて皆でゲームをしたり、カラオケ等をしている。		

グループホームほほえみ鹿沼

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても時々、状況を確認の為、連絡している。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を把握し意向に添える様に努力しています。	職員は日頃から会話や傾聴の時間を大切にしている。会話が困難な場合には表情や体の動きなどを見ながら、本人の意思を読み取る工夫をしている。疎通が困難な場合も、喜怒哀楽等を慮りながら、職員間で相談し、多くの意見や見解から検討して、本人にとってより良い支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント際、一人ひとりの生活状況の確認しサービス利用が出来る様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様のその日の状況に合わせて把握し支援します。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様に各担当を付けて状況を把握し何が必要か又問題点は何なのかを話合っている。	利用者の様子や変化等、気が付があれば小さな事でも全て記録し、職員間の情報共有を図っている。モニタリングでは担当職員を中心に全職員で話し合っている。家族、職員、医師、包括支援センター職員など多くの関係者の意見を取り入れ介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの日々の記録をしその人にあった工夫をしている。職員ノートを作り皆で確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせてながら支援をしていきます。		

グループホームほほえみ鹿沼

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方より畑えお借りて簡単な野菜作りを楽しむ事で生活に張り合いが出来様に考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかり医院と家族で連携し行う事が出来ています。一部の入居者様は訪問診療を受けています。	かかりつけ医の定期受診は家族付添を基本としている。車椅子の使用など移動が困難な場合は必要に応じ送迎を手伝い、受診継続を支援している。通院が困難な場合、提携医の訪問診療に変更した方もいる。医療機関と関係を密にし、緊急時も適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は看護師がいない状況です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員と連携し利用者様の状況を確認し訪問する様にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、家族様と共有し職員一同支援出来る事を話し合う。	重症化した場合にも、利用者にとって何が最善かを医師、家族と情報共有していく。医療行為が必要ない場合など、事業所での対応できる利用者であれば、家族と話し合いの上、看取りまで行う方針である。	事業所として現状としてどこまで対応できるのかを明確にし、看取りについてのマニュアルを作成するなど事業所としての方針を書面で整えたい。また、看取りについて職員の知識を深める研修会を行うなど職員教育の一層の充実を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現在は行っては居ないが今後、事故発生時に備えて、応急手当の訓練を定期的に行って行きます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在は出来て居ないが、災害時、の避難場所を把握し利用者様、職員全員が避難出来るように地域と連携して行きます。	開所後一回目の法定訓練は行っているが、その日参加できなかった非番の職員や訓練実施日後に入職した職員は、災害時の通報手順や、建物の設備やシステムについて、現状では把握しきれない部分もあり、二回目の訓練を計画し、実施予定である。自家発電の設備を整えている。	訓練実施日以外にも、日頃の申し送りや会議等で災害時の緊急対応や避難誘導等の方法を折に触れ確認するなど、職員への周知徹底ができるよう、すぐできることから取り組みたい。具体的な災害時対応のマニュアル作成も期待したい。

グループホームほほえみ鹿沼

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重して関わっていますが職員も忙しくなると強い口調で話す時がある。	利用者への接し方や口調など、「自分だったら」「自分の家族だったら」どう思うかを、相手の立場になって考え、職員間で注意しあいながら、より良い対応ができるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自己決定が出来るように何を望んでいるのかを来たり話したり居ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様が自分らしく居られる様に自分の時間の持てる様にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗濯をし清潔にしています。季節に合った服装を考えています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人が出来る事をお願いしています。野菜の皮むきや食器拭き、テーブル拭きをしてお手伝いをして頂いています。入居者様に食べたい物を伺っています。	3～4日おきに職員が近くの直売所やスーパーマーケットで買い出しし、その日の調理担当が、利用者の食べたいものや在庫の食材の中から献立を考えて3食手作りしている。利用者と一緒に食卓を囲んでいる。季節毎の行事食や誕生会、たこ焼きパーティーなど、特別なメニューも取り入れ食事の時間が楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	塩分控えめの方には味噌汁を少なめにしたり。水分補給は食後、10時、15時に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、職員が声掛けをし口腔ケアを行っている。入れ歯は夕食後、ポリデントで消毒している。		

グループホームほほえみ鹿沼

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレ誘導や自己でトイレに行かれ、後始末が出来ない所はお手伝いをしています。	リハビリパンツやパットを適切に使い、一人ひとりの身体状況に合わせてサポートしながらトイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルト、ヤクルトを朝食で提供しています。日中はラジオ体操、転倒予防体操をしたりしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様に合わせた時間で入浴はしていない時もあります。職員不足にて	週2回1対1の支援を基本に、午前午後それぞれ2名ずつ一日4名の入浴を行っている。必要があれば2名介助で支援している。シャンプーなどは利用者各々の馴染みのものや好みのものを使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜はその人に合わせた就寝としています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問薬局も関わっていますのでその都度、分からない所は確認している。薬の変更時はノートを使用し連携する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や食器拭き、洗濯たたみ、庭のトマト、ナスの水やり等、趣味を生かし漬物作り、将棋を楽しみながら行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見やドライブをしたり、自宅に家族と一緒に外出し食事をしたり楽しんでいます。	毎日近隣を散歩したり、レクリエーション係が計画しドライブへ出かけたりと、利用者の希望に添って日常的に外へ出る機会を設けている。市内の桜やツツジの名所でもある大きな公園へ花見へ出かけるなど、季節に合わせた外出も行っている。	

グループホームほほえみ鹿沼

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今はやっていない。今後の所でお買い物ツアーを考えています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在はしていません。現実、字を書ける入居者様少ない。出来る方には行って頂くように努めます。入居者様の希望はない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の花を飾ったり、壁作りを季節の風景がを持って心地よく過ごせるように努めます。	レクリエーションを兼ねて、月毎の季節感を取り入れた貼り絵の装飾カレンダーを利用者と共に制作し、リビングに飾っている。空調完備しているが、気候の良いときには自然風も取り入れるよう窓を開け風を通してしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は個室で自己の時間を作り過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の使い慣れた物を持参し過ごしている。	エアコン、ベッド、筆筒、洗面台、カーテンなどが備え付けとなっている。テレビを置いたり、畳生活をしてきた利用者はベッドではなく床に布団を敷いたり、各々の生活習慣や使い慣れたものを取り入れ、利用者が居心地良く過ごせるようサポートしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様、個々に合った生活ができる様にスタッフで工夫しながら出来ない事を行っている。		